

八幡川周辺の夏

八幡川
緑地
ガイドブック

晩春から初夏にかけては清らかな白い花たちが目立ちます。春の色とりどりの花に比べ花色は乏しくなりますが、次第に濃くなる緑にコントラストが一層際立ちます。また、盛夏の頃になるとオレンジなどの赤系の花が人目を引くようになります。



クツギ (ユキノシタ科)

低山の、やや湿った山腹や溪流沿いの木陰に生える高さ1mくらいの落葉低木で、幹肌は褐色です。葉は卵形または楕円形で、縁はのこぎり状になっています。枝先に花をつけ、白い大きな花は装飾花で、昆虫たちをひきつける効果はありますが、退化し結実しません。



ユガクツギ (ユキノシタ科)



ユキノシタ (ユキノシタ科)

日当たりのあまり良くない湿った場所に生育する高さ20～50cmの半常緑性多年草です。花期は5～7月で「大」の字に似た白い小さな花をつけ、上側の3弁に淡紅色の点があります。葉は厚く柔らかで、表面には長毛がびっしり生えます。

13



ユアザサイ (ユキノシタ科)

樹木の下や薄暗い湿ったところに生える高さ1～1.5mの落葉低木。初夏のころ、花に装飾花のない青紫色の花を多数つけます。葉は卵形で、縁はのこぎり状になります。名は小さなアジサイという意味です。



トクダミ (トクダミ科)

陰湿な林下や家の北面などの日陰地に群生する高さ30cmの多年草です。6～8月頃、咲きますが花びらはありません。花びらのように見えるのは総苞片で、黄色く見えるのが花です。おしべとめしべだけで成り立っています。葉は心臓形で、特有の臭気があります。古くから十薬と呼ばれ、利用されてきました。

日当たりの良い草原や林縁などに見られる高さ30～100cmの多年草です。花は6～7月に白い小さな花が密集して咲きます。深く裂けた花はもとの方から先端に向けて順番に咲きます。花がトラの尾に似ていることからこの名がつけました。



オカトラノオ (サクラソウ科)

14

夏



●●●
晩春から初夏にかけて、上流部の
渓流沿いを歩くときと湿った岩や湿地
に直径1cmほどの黄色い小花を
つけるヒメレンゲを見かけます。

ヒメレンゲ(ベンケイソウ科)

●●●
比較的日当たりのよい丘陵や山野に自生する
野生バラの代表種で、高さ2mの落葉低木です。
5~7月にかけて2~3cmの白い花をつけよい
香りがします。よく枝分かれし、鋭いトゲがある
ので注意しましょう。



ノバラ(バラ科)



クサイテゴ(バラ科)

●
山野の樹木の下などに生える高さ20
~60cmの落葉小低木です。本種は
草のように見えますが木の仲間です。
4月頃3~4cmの白い花をつけ、初夏
に甘くておいしい実をつけます。茎には
小さなトゲがあるので果実を採取する
ときには注意しましょう。

●●●
やぶや林縁、人家付近に生えるつ
る性植物です。花が咲くと花びらは
早めに脱落し、オレンジ色やピンク
色をした花(花殻)にはしずくのよう
に蜜がつきます。他の草に覆い被
さって枯らしてしまうほどよく茂るので、
この名があります。

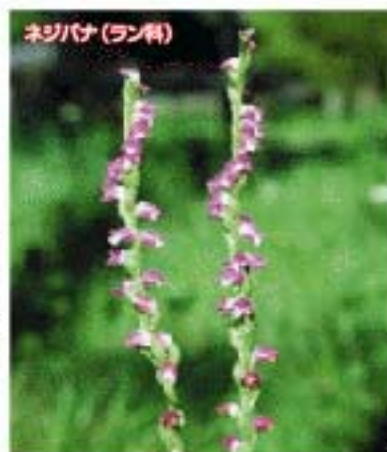


ヤブガラシ(ゴウケクサ科)



ノカンゾウ(ユリ科)

●●
小川のはとりや林縁に生える高さ
70~90cmの多年草です。花は
7~8月頃、朝開き夕方にはしぼみ
ます。花はオレンジ色の一重咲きで、
よく似た花で八重咲きのヤブカン
ゾウがあります。これらの花のことを
古くには「忘れ草」と呼んでいました。



ネジバナ(ラン科)

●●●
日当たりのよい芝地や草原に生え、
高さ10~40cmの多年草です。
5~9月にかけて淡紅色の小さな花
をらせん状につけます。葉は、根ざ
わと茎の下の方から数枚だし、やや
幅の広い線形をしています。
別名「モジズリ」ともいいます。

ネム (マメ科)



山野や川のそばに自生する落葉高木で、花は夕方から咲き始め、葉は夕方に閉じます。

普通、木の花も草花も太陽の光を受けて美しい花を咲かせます。中にはこの太陽をさけるように咲く花もあります。

山野の樹木からみついで生育するつる性植物です。花は8月～9月にかけてレース状の白い花を日没後に開きます。果実は10cmぐらいの卵型で、12月頃になって黄色く熟します。天瓜粉は、このキカラスウリの根茎のデンプンから採取します。



キカラスウリ (ウリ科)



ツククサ (ツククサ科)

道端や湿ったところを好み高さ20～50cmの1年草です。茎は、ほうように伸び根をだして、よく枝分かれます。葉は長さ5～7cmで2列に交互につきまます。葉のわきからでた花軸に直径12mmほどの青黄色の花を夜中から明け方にかけてに咲かせます。

よるしげお葉

カタバミの仲間にはカタバミ科の多年草で、日本全土に分布します。花期は4月～9月。カタバミの仲間には葉が赤みを帯びた、日本在来種のアカカタバミ、帰化植物で南アメリカ原産のムラサキカタバミやイモカタバミなどがあるほか、園芸用として改良されたものまであります。「カタバミ」とは葉が半分という意味で、「傍食」または「片食」がその語源といわれます。また、カタバミは「酢漿草」とも書きます。「酸漿」とはホオズキの意で、小さなバナナ形の果実を咬むとホオズキに似た酸っぱい感じがします。夜になるのを待ってカタバミを見ると、葉間は水平になっている葉が葉の付け根から折れたように垂れ下がり、葉裏を密着させるような形で閉じます。ちょうど開いていた傘を半分ほどすぼめたときの状態に似ています。



カタバミ (カタバミ科)



ムラサキカタバミ (カタバミ科)

ムラサキカタバミは高さ10～20cmで、花の色は薄紫色で、中心部が緑色をしています。花は咲かせますが、結実しないため、地下茎により繁殖します。

イモカタバミは高さ20～30cm。花は咲かせますが、結実しません。地下茎に芋が出来ることで、繁殖します。ムラサキカタバミに似ていますが花の中心部が赤いことで見分けます。



イモカタバミ (カタバミ科)



山野に、他の樹木にからみついて伸び上がったり、地表を長く伸びるつる性植物です。5～7月頃、枝先や上部の葉のつけ根に直径2～3cmのスクリュウ形（スクリュー）の白い花を咲かせます。花には上品な香りがあり、藤原定家ゆかりの植物です。

テイカカズラ (キョウチクトウ科)

高さ2～3mのつる性低木です。5～7月に葉のつけ根から3～4cmの2個の軟毛の生えた花をつけます。花色は始めは白で、後に淡黄色となることから金銀花ともいいます。管状になった花を引き抜き口に含んで吸うと、甘い蜜を味わえることから「スイカズラ」といいます。



スイカズラ (スイカズラ科)



ボタンカサギ (クマツツク科)

中国原産の高さ1～2mの落葉低木です。観賞用に植えられたものが野生化し八幡川流域で見られます。7～8月に枝の先端に小さな花が直径10cmほどのボール状にかたまってつきます。葉は広い卵形で枝や葉を切るとう独特の強いにおいがします。

山野に生える、高さ15～20mの落葉高木です。樹皮は荒く縦に裂け目があります。雄花と雌花が同じ木に咲き、雄花は写真のように淡い黄褐色の長さ10～15cmの房状の花をつけています。雌花は緑色で小さなイガの形をしています。花期は5～7月で、独特の強い匂いを発します。



クハ(ブナ科)



アカメガスラ (トウダイグサ科)

山野に生える生長の早い高さ5～10mの落葉高木で、雄と雌の木が別々です。5～7月に花びらのない淡黄緑色の小さな花を密生させます。春の新芽が赤いことと、昔はカシワの葉と同じように食べ物を包んだことから「アカメガスラ」と呼ばれます。



高さ3～10mの落葉高木です。樹は薄く皮が割れ、白や茶褐色のまだら模様がナツツバキに似ています。6～7月に小さな白い花を密につけたくさんの昆虫が訪れます。

リュウブ (リュウブ科)